

# 科目区分：人文・社会科学

授業科目名	人間と文化（西欧文化の古層）				学期	曜日	校時
英語名	Humanity and Culture ( (Medieval Culture of Western Europe)						
担当 教官名	永嶋哲也	単位数	2単位	必修 選択	選択	後期	水曜日 3校時
授業のねらい・内容・方法							
<p>「恋愛は12世紀の発明である」とかつて言った歴史家がいた。現在、われわれが永遠普遍的価値だとさえ考えがちな個人的な男女間の恋愛というのは、西欧という限定された地域の、12世紀という限定された時代の、封建制という特定の身分社会によって発明された文化的人工物なのだという主張である。</p> <p>わたしたち日本人からすればバカバカしい考えのようにも思える。それなら日本において「恋愛」は明治の文明開化のときに輸入されたということになってしまう。だが実は、それほどバカげた意見ではない。</p> <p>西洋文化という流れの直系にない日本文化に属するわたしたちだからこそ理解できる西洋の側面があると思う。逆に、西洋文化を知ること、西洋文化が多く流れ込んでいる現在のわたしたちの文化を深く知ることができると思う。この講義では、わたしたちの文化をより深い層から理解することを目指す。</p>							
テキスト、教材等							
教科書は特に指定はしない。必要であればプリント等の資料を適宜用意する。参考文献は講義中紹介する。							
対象学生	成績評価の方法				教官研究室		
全学部	平常点、および学期末試験・・・学期中に数回、授業中に授業内容に関する感想・意見などを書いてもらう。その内容でもって講義に対する積極性という平常点を判断する。学期末試験は記述形式で二問。一つは授業内容の要約で、もう一つは自らの意見を展開してもらう。						
授業計画							
<p>わたしたちの文化を理解するために、「恋愛」と「個」をテーマにする。文化の前提していることを扱うのだから、内容的には、思想、歴史、文学にまたがった話になるし、取り上げる時代も中世を中心に古代、近代、現代にまたがることになる。文化、特に書籍文化に興味があり、地図のない「中世の森で」さまよう覚悟のある者だけ受講して欲しい。</p> <p>なお、授業スケジュールは以下のとおり予定している。</p> <p>01回目 イントロダクション（「文化」とは何か）</p> <p>02回目 （承前）</p> <p>03回目 源流 ギリシャ的思考とユダヤ的信仰、ガリヤ的背景</p> <p>04回目 修道制と宗教思想</p> <p>05回目 記憶と口承の文化</p> <p>06回目 結婚と恋愛の原型</p> <p>07回目 恋愛の文学 愛の誕生</p> <p>08回目 密通の物語</p> <p>09回目 （承前）</p> <p>10回目 恋愛詩の系譜</p> <p>11回目 愛の書簡</p> <p>12回目 個の思想 個の誕生</p> <p>13回目 ギリシャの普遍思想</p> <p>14回目 キリスト教の救済思想</p> <p>15回目 試験</p>							
オフィスアワー（質問受付時間）：特に定めない。来校中はいつでも対応する。							